

【基本的運営方針】 A 優れた作品の収集と保管

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価項目の評価	取組状況	成果・課題	基本的運営方針の評価	今後の対応方向
コレクションの活用状況	コレクションの稼働率	25.0%	24.8%	99.2%	b	<ul style="list-style-type: none"> ・特別展及び常設展において、当館所蔵作品746点中、185点を展示した。 ・道立近代美術館の「砂澤ビッキ」展に7点の作品を貸し出した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に所蔵品を活用することで、指標値を達成することができた。 ・当館の所蔵作品は収集方針により大型のものが多いため、展示スペースが足りなかったり他館への貸出の際に輸送経費が高くなる等の課題がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・展覧会における所蔵品の活用をさらに進めるものとし、当館のみならず、他の美術館でも活用してもらえよう連携を強める。 ・所蔵品の管理については、引き続き日常的に作品の状態を把握し、適切な対応をとるものとする。 ・所蔵品の修復については、修復候補作品一覧を完成させるとともに長期的な修復計画の作成を検討する。また、運営費等の節約や効率的な執行等により必要な経費の確保に努める。
	所蔵作品を他の美術館企画展で活用								
コレクションの充実度	収集方針に基づき、主体性を持ち積極的に収集活動を行う				c	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵庫や展示室の温湿度等を随時調査し、管理することでより適正な保管環境を維持することができた。 ・計画的に所蔵作品の修復を行うため、修復候補作品一覧を作成中である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・修復に係る予算が少ないため、必要な経費を捻出することが課題である。 		
保管状況の適切さ	適正な保管環境を保持し、必要な調査に基づき措置を行う 計画的に所蔵作品の修復を行う								

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 B 多彩で特色ある展示活動の充実

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価項目の評価	取組状況	成果・課題	基本的運営方針の評価	今後の対応方向
常設展示の充実度	常設展示観覧者数	12,000人	13,778人	114.8%	b	・展示の内容を充実など魅力ある展覧会とすることで、観覧者数、満足度、リピート率ともに指標値を概ね達成した。	・観覧者数について、指標値は達成しているが、リピーターの増など、より一層観覧者数を増やすため、新たに魅力的な展示を検討する必要がある。	B	
	常設展示観覧者の満足度	80.0%	92.7%	115.9%					
	常設展示のリピート率	60.0%	58.8%	98.0%					
特別展示の充実度	特別展示の観覧者数	39,000人	43,940人	112.7%	b	・展示の内容を充実など魅力ある展覧会とすることで、観覧者数、満足度、リピート率ともに指標値を超えることができた。	・4本の特別展のうち、「北斎展」と「美術館に行こう！」の2本が、観覧者数歴代20位以内となるなど、大きな成果を挙げた。		
	特別展示観覧者の満足度	80.0%	96.9%	121.1%					
	特別展示のリピート率	60.0%	63.6%	106.0%					
入館者の拡充	美術館の魅力を広め入館者増につながる取組の実施				b	・夜間にギャラリートークを実施した他、ロビーコンサート等の事業を積極的に実施した。	・これまで美術館に訪れたことがない客層に対する集客に効果を挙げた。		
展示の状況	展示のねらいが効果的に表現できているか				b	・開館40周年に合わせて展覧会毎に立てたねらいを、作品借用、地域美術の研究、空間構成の工夫等を通じて表現した。	・様々な手法で来館者の鑑賞と理解の一助となるよう配慮し、概ね好評を得た。 ・展覧会毎のねらいを反映した工夫を継続することが重要。		
館外展示の充実度	移動美術館入場者満足度	設定なし			b	・近代美術館に砂澤ビッキ作品の貸出をした。 ・オンラインアート教室にて、道内3校とオンラインによる授業を実施した。 ・リモートミュージアムで、開館40周年における開催展を紹介した。	・オンラインアート教室について、普段美術作品に触れることが難しい地域に居住する子どもたちなどに、その機会を提供する事業として有意義であり、実施校から評価を得た。		
	その他の館外展示の状況								

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 C 豊かな人間性を育む学習の場と美術情報の提供

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価項目の評価	取組状況	成果・課題	基本的運営方針の評価	今後の対応方向
教育普及事業の充実度	教育普及プログラムの実施数	70回	72回	102.9%	b	・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、人数制限などの感染症対策を行いながら実施したため、参加者数は指標値を達成することができなかったが、実施数、満足度は指標値を達成した。	・人数制限を実施しながらも、最大限収容者数を増やすため、会場レイアウトを工夫するなどの対策を講じた。 ・展覧会への理解を深めることができる魅力ある講演会を開催するなど、各事業の内容の充実に注力することで、参加者から好評を得た。	C	・教育普及プログラムについては、引き続き、新型コロナウイルスに係る感染防止対策を行いながらの実施となるが、最大限参加者に影響が生じないよう工夫を凝らすとともに、内容の更なる充実や、展覧会に関連し剣淵町絵本の館や旭川市中央図書館などの関係機関と連携したプログラムについても積極的に実施する。 ・SNSを活用した情報発信については、投稿内容の工夫や回数が増など、より強化するとともに、引き続き、新聞広告やケーブルTV、FM局、地元誌など地域の関係機関との連携を強めながら、情報発信に努める。
	教育普及プログラムの参加者数	2,500人	1,771人	70.8%					
	教育普及プログラムの満足度	80.0%	98.5%	123.1%					
	教育普及事業の状況								
美術情報提供の充実度	ARS、図書コーナーの利用者件数	1,000人	6,244人	624.4%	c	・図書コーナーについては、密を避けるため座席数を制限し実施しているが、利用者件数は指標値を大きく超え、また、満足度についても概ね指標値を達成した。 ・HPアクセス件数は指標値を大きく超えることができたが、ソーシャルメディア(ツイッター)の投稿数は昨年度の倍以上ではあるものの指標値を達成出来なかった。 ・その他の情報発信については、新聞への広告の掲載や、地域のケーブルTV局やFM局と連携し学芸員が出演したり、情報誌に記事を掲載するなど、広く情報発信に努めた。	・来館者が利用しやすいようロビー内に図書コーナーを設置しているが、より一層来館者の満足度が高めるよう取り組みが必要である。 ・ソーシャルメディアについては、投稿件数を増やすための方策が課題である。 ・情報発信については、新聞広告や記事が特に効果があり、掲載後はイベントの申し込みや問い合わせが殺到するなど、特に成果を挙げた。	C	
	ARS、図書コーナーの利用者満足度	80.0%	77.3%	96.6%					
	多くの来館者が利用できる図書コーナーの環境整備・保持								
	HPアクセス件数	156,000件	276,085件	177.0%					
	メールマガジン等発行回数	実施なし							
	ソーシャルメディアの投稿数	170件	120件	70.6%					
	情報発信の状況								

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 D 活動の基礎となる調査・研究の推進

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価項目 の評価	取組状況	成果・課題	基本的 運営方針 の評価	今後の対応方向
調査・研究の 充実度	学芸員による調査報告	/	/	/	b	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道立美術館・芸術館紀要に研究成果を執筆するとともに当館の美術館報「氷華」に作家調査の報告を執筆した。 ・作家資料や図書資料を継続的に収集・整理している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紀要や美術館報の執筆は、後年の美術館職員が資料として活用できるものとなり有意義である。 ・各種資料のデータ化を進めることが今後の課題となっている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き、北海道立美術館・芸術館紀要への執筆や当館美術館報の作成を続けるとともに、各種資料を収集しデータ化に努める。
	二次資料の状況	/	/	/					

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的 運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 E 地域文化の振興

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価項目の評価	取組状況	成果・課題	基本的運営方針の評価	今後の対応方向
地域の関係機関との連携状況	ボランティア団体等の主体的な事業の参加者数	実施なし			b	<ul style="list-style-type: none"> 旭川美術館ボランティア団体「常磐会」と喫茶や売店の運営、広報など様々な場面で連携している。 旭川美術振興会、旭川市民実行委員会、道新旭川支社など、地域の団体等と展覧会の実施や広報活動など、連携した取り組みを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員全員がボランティア団体と日頃からコミュニケーションをとり、良好な関係を築くことで、館の活動とボランティア活動をスムーズに連携させることが出来た。 実行委員会展の成功など、地域の団体等を連携を密にし、協力や支援を得ることで大きな成果を挙げることが出来た。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、地域に根ざした美術館であるため、旭川美術振興会などの地元の美術関係団体・企業や、ボランティア団体の意見や要望も取り入れながら連携・協力体制を強化することで、展覧会や各種事業の更なる充実を図る。 また、次年度は新たな取り組みとして、「旭川市中央図書館・北海道立旭川美術館コラボレーション2023」と題し、年間を通じて、相互に展示コーナーを設置したり、職員を派遣し講座を実施するなどの連携活動を行う。 ・コロナ禍であり制限がある中で各種事業を行うことになるが、最大限学校からの要望に応えられるよう工夫し事業等を実施する。
	ボランティアが活動しやすい場の提供								
	地域と連携した取組の状況								
学校との連携の状況	キャンパスパートナーシップのメンバー校数	2校	1校	50.0%	c	<ul style="list-style-type: none"> キャンパスパートナーシップは、教育大旭川校が脱退したことで、目標を達成していない。 指導者研修については、予定どおり展覧会ごとに4回実施したが、参加者数は指標値に達しなかった。 学校教育活動への対応としては、オンラインアート教室として3校、職場体験の受け入れを1校などを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> キャンパスパートナーシップについて、現在メンバーである1校も辞めたい旨の申し出があったが、継続していただいている経緯がある。 指導者研修については、教員が参加しやすくなるよう実施時期を検討する必要がある。 オンラインアート教室は、学校から次年度以降も事業を利用したいと好評であったが、オンライン機器の運用面でスムーズでなかった面や学校との事前打ち合わせの仕方など、検討すべき課題があった。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、地域に根ざした美術館であるため、旭川美術振興会などの地元の美術関係団体・企業や、ボランティア団体の意見や要望も取り入れながら連携・協力体制を強化することで、展覧会や各種事業の更なる充実を図る。 また、次年度は新たな取り組みとして、「旭川市中央図書館・北海道立旭川美術館コラボレーション2023」と題し、年間を通じて、相互に展示コーナーを設置したり、職員を派遣し講座を実施するなどの連携活動を行う。 ・コロナ禍であり制限がある中で各種事業を行うことになるが、最大限学校からの要望に応えられるよう工夫し事業等を実施する。
	出張アート教室の延べ参加者数	設定なし							
	指導者研修の延べ参加者数	50人	31人	62.0%					
	学校教育活動への対応数	16件	13件	81.3%					
	参加者・利用者満足度								

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 F 良好な滞在環境の提供

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価項目の評価	取組状況	成果・課題	基本的運営方針の評価	今後の対応方向
附帯施設の充実度	レストラン・喫茶利用者の満足度	70.0%	73.6%	105.1%	b	<ul style="list-style-type: none"> ・喫茶、ミュージアムショップともにボランティア団体「常磐会」が運営しており、利用者満足度は指標値を超えている。 ・ボランティア団体と美術館が常に協力しながら、利用者サービスの向上に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「美術展に行こう！」展のようにミュージアムショップの人気の高い展覧会において、ショップが混雑した場合の対応など、特に密を避けなければならないコロナ禍においては、対策を検討しなければならない。 ・美術館とボランティアが、来館者アンケートなどの情報を共有することで、協力し速やかに問題を解決することが出来た。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における感染症対策を適切に行いながらも、利用者に満足いただけるようボランティア団体等と連携しながら、喫茶、ミュージアムショップの利用者サービスや環境整備に努める。 ・来館者アンケートなどを活用しながら、館内スタッフの情報共有を徹底し、ホスピタリティの向上に務める。 ・施設が老朽化する中で、来館者の安全確保を最優先としながら、快適に過ごしていただけるよう施設環境を整備する。
	ミュージアムショップ利用者満足度	70.0%	76.2%	108.9%					
	事業者と協力してのサービス向上の実践								
館のホスピタリティ	館内スタッフの対応に関する利用者の満足度	90.0%	89.6%	99.6%	c	<ul style="list-style-type: none"> ・館内スタッフの対応に関する利用者の満足度は、概ね指標値を達成することが出来た。 ・ホスピタリティの向上に向け、アンケートの改善意見を即時職員で共有することとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な価値観を持つ来館者全てに、満足して美術館を利用していただけるよう、常に緊張感と改善意識を持つ必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者アンケートなどを活用しながら、館内スタッフの情報共有を徹底し、ホスピタリティの向上に務める。 ・施設が老朽化する中で、来館者の安全確保を最優先としながら、快適に過ごしていただけるよう施設環境を整備する。
	ホスピタリティ向上に向けた取組み								
施設環境の保持	施設内外の環境への満足度	90.0%	96.5%	107.2%	b	<ul style="list-style-type: none"> ・日常点検や職員の巡回を行うなど、施設環境を良好に保つことで、目標を達成出来ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開館から40年を経過し、老朽化により設備等の故障が頻発しており、来館者の安全を確保するとともに、鑑賞環境に支障が生じないように速やかに修繕等の対応をする必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者アンケートなどを活用しながら、館内スタッフの情報共有を徹底し、ホスピタリティの向上に務める。 ・施設が老朽化する中で、来館者の安全確保を最優先としながら、快適に過ごしていただけるよう施設環境を整備する。
	施設安全性保持のための必要な措置								

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E